

雨季

きたる



水防無線なども増設

水防体制をかためよう

☆☆☆☆☆

昭和二十四年八月水防法が施行されて以来、本県でも水防体制が着々と充実しつつあるが、自然の猛威の前には未だ完璧とは云い得ない現状で、なお一層の研究と努力を続けている。

水防計画と水防活動にも毎年進歩改善を加え、今年の「水防計画」は既に県水防協議会の審議も終って水防体制を固めている。

即ち、県は水防本部を県庁内におき、熊本気象台長からの気象予報の通知を受けると同時に活動を開始する。

各県事務所には水防区本部を設け、水防管理団体(指定市町村)はこれら本部からの情報により水防活動を実施するようになっている。県は県下各地に設けられた水位、雨量、汐位の観測所の報告と気象予報等を集め、洪水水位が警戒水位に達する時刻や水防活動の指示や指導、水防

資材の整備、補給、連絡、災害が発生した場合の自衛隊出動の要請等をする。

各水防管理団体又は町村水防団体は、気象台の気象注意報や本部からの連絡を受けた場合は、速やかに水防団員を召集し警戒体制に入り、堤防が危険に類した場合に全員出動し水防活動に入る。

水防活動に必要な資材は各地に設けられた県管理分十五棟、市町村の管理する百二十二棟計百三十七棟の水防倉庫の資材を使用できるよう完備してあり更に今年度は、緑川水系に二棟新設することになった。

県水防本部はこれ等の活動を円滑に行うために、短波無線機増設を計り現在では出力十五Wの固定局七局と移動局(パトカー)五局を完備しており、更に三十五年度は固定四局移動二局を増設することとしている。又、全国的な組織をもつ

非常無線通信網により情報交換もできるよになつてはいる。

又、水防訓練も、現在県下六カ所において、各指定水防管理団体が中心となつて実施中であり、水防工法や通信方法など昨年にも増して実戦的訓練が続けられている。

油断できない 雨勢の弱まり



諫早災害の教訓

昭和三十三年七月二十五日の夜、長崎県諫早市の中央を流れる本明川の洪水で八百人の生命と二千戸の家屋が有明海にのまれたことは、まだなまなましい記憶である。

この集中豪雨は、日雨量一、一〇九ミリ、一時間雨量一四四ミリという世界記録を作った。日雨量一、一〇九ミリといえば瀬戸内海地方の一年間の総雨量に相当するというケタはずれの豪雨であつた

梅雨診断

今年の梅雨は月末から七月にかけて局地的な大雨。今年には水害の周期にあたるので警戒が必要と熊本気象台では云つてはいる。

ので、ある程度の災害は避けることはできなかつたであろうが、このときも事前大雨警報は出てはいるし、また避難命令も出されてはいた。

事実、一部の市民は避難を始めていたが、皮肉にも十八時ごろから、雨勢は弱まり二十時ごろには本明川の水位は一メートルも下がり、この状況を見た市民はだれいともなく、大丈夫だと避難をやめたものが少なくなつた。

ところがその直後、雨は再び強まり、三時間三〇〇ミリという集中豪雨となり二十二時すぎ突然流木と一緒に山のような濁流がおしよせてあの惨事を起してしまつたのである。

一時的減水による油断、避難命令のサインを聞きながらも、「今に雨はやむだろう」と思う人情の弱点、そのうえ夜間雷鳴強雨の最中では警戒や連絡がうまくいかなかつたのであろうか。

又これと対照的に防災訓練がゆきとどき、気象通報所の連絡にもとづいて住民の退避がうまく行なわれ、損害を最少限にとどめた例も少くない。

農作物にはこんな注意を……

水稲早期

最もおそろしいのは、浸水・冠水による「黄化イシユク病」の被害。この病気にかゝると(病菌は水中に浮遊して四〜五時間で感染する)薬剤防除の方法がないから、排水に努め、苗代では病気の発生次第では普通作に切替えるのはかたない。このために予備苗の対策をあらかじめとつておくこと。

普通作苗作

浸水、冠水による復旧のための苗不足が常に問題となる。水害常習又は危険水田は、予備苗の対策が必要。

普通稲作の本田

雨の多い時は肥料の流亡損失が多い。特にチツソ肥料は元肥の重点施用(多用)をさけ「分施」すること。施肥直後に耕起し、肥料と土壌との混合をよくするように留意し、灌水は数日以内がよい。

そ菜類

大雨の時浸水・冠水する所や湿りの多い所では、高畦にするとか、耐湿性の大きい種類、又は品種を選ぶこと。一時的にせよ

水につかつたならば、早く排水し、中耕をして土中に空気を入れること

又雨期には、トマト、ナスの疫病やキウリの「ベト病」、「炭疽病」等が多く発生するので、特に果菜類の栽培では薬剤散布に重点をおくこと

大豆、甘藷など畑作物

畑作の培土は欠くことのできない重要な作業であるが、大雨直前に培土すると、畦がくずれ、土壌流亡が甚だしくなるので、培土期を繰上げて、早期に作業が完了するように計画すること。

このような時にこそカルチャやテラ等効率的な農具を大いに活用した

果樹

①極力排水に努め、根の呼吸障害を防止すること。②石垣や、土羽が崩壊しないよう溝からえを行ひ、崩れた箇所は早く復旧して根の乾燥を防ぐ。③果樹棚は倒壊しないように補強し、倒壊したものは速かに復旧。④袋掛けする種類で袋が破損したり脱落したものは速かにかけ替える。⑤雨前の草刈り、草とりをやめ、敷ワラをふやして土壌流亡を少くする。⑥病害虫防除を徹底する。

情報連絡をしつかりと



水防教訓四力条

以上の教訓により、皆さんの家庭等における注意をまとめてみると

(1) 局地的の降雨に注意せよ

梅雨期に強い雷を伴つた雨が降り出したら、いちおう「局地的豪雨」とみなして、台風に劣らぬ警戒をすること。この場合、洪水だけでなく山くずれも特に注意すること。

(2) 情報を信頼せよ

一時的に風雨が弱くなつたり、水位が下がつても、デマに迷わず気象警報と県水防警報を信頼して、堤防、水面等を監視するとともに水防作業を実施し、特に避難は早目に行い、警報が解除されるまでは油断してはならない。

(3) 防災隣組の組織を作つておくこと

夜間は特に連絡がとりにくいから、電線が切断してラジオの警報も聞かれない場合もあるから、積極的に防災水防機関と連絡がとれるよう、日ごろから隣組で連絡組織を作つておくこと。

(4) 情報連絡を怠るな

有明海と不知火海に面した干拓地は、伊勢湾台風の被害地と同じ条件下におか

補強や排水など



住宅の雨季対策

① 屋根の雨漏りは早めに修理を。特に屋根の接合部や谷の部分が雨漏りのしやすい箇所。

② 雨樋は内側を掃除して雨水の排水がよくできるようにしておく。

③ 雨掛りの外壁も破損箇所は是非修理しておかないと、内部の見えない柱や土台等大切な構造材が腐る。

④ 鉄板部分には防錆のためペンキやコーティング剤を、木部には防腐剤を塗つておく。

⑤ 雨漏りする屋根裏や、痛んだモルタル壁の内部に配線された電線は漏電の恐れ